

令和5年度第1回習志野市市民参加型補助金審査委員会議事録

1 開催日時 令和5年4月8日(土) 午前10時～10時25分

2 開催方法 オンライン(Zoom)

3 出席者

【委員長】 牧野 昌子

【委員】 齊藤 恵子

田島 則行

高岡 明美

松井 秀明

山野井 武

【事務局】協働経済部 部長 根本 勇一

次長 小倉 一美

協働政策課 課長 河栗 太一

係長 柴野 タ子

【発表者】 きらっといっぱの会 2人

【視聴者】 0人 (関係課職員 5人)

4 会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 報告 (1) 令和4年度習志野市市民参加型補助金事業実績報告について

5 会議資料 令和5年度第1回習志野市市民参加型補助金審査委員会に関する資料

※別添資料

会議次第

資料1 習志野市市民参加型補助金審査委員会スケジュール

資料2 令和4年度習志野市市民参加型補助金 申請事業一覧

参考 ・習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領

・習志野市市民参加型補助金審査委員会委員名簿

6 会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

第2 会議録署名委員の指名

齊藤委員、田島委員

第3 報告 (1) 令和4年度習志野市市民参加型補助金事業実績報告について

【河栗協働政策課長】

資料1、資料2について説明。

※質疑なし

【きらっといっぽの会】

実績報告（発表）

【牧野委員長】

作成したチラシと冊子は、とてもやさしい感じで、皆さんの目に留まったのではないかと思います。

報告書を確認させていただいたが、アンケートの依頼、ポスター・チラシの配架など、本当に大変だったと思うが、そのことにより、さらに理解が深まっていくのではないかな。

市民活動団体として、当事者だからこそ、伝えるべきことがある。市民性や当事者性を発揮した活動であったと思う。

チラシ・ポスター等に対するたくさんの感想を読ませていただき、お互いにやさしい眼差しを向け合えるような地域にしていきたいとあらためて感じた。

「温かく見守ってください」という言葉は、障がいのある人たちにとって「やさしいまち」というのは、高齢者やいろいろな方々に対しても「やさしいまち」。「温かく見守ってください」という言葉どおり、高齢者やいろいろな方々に対しても「やさしいまち」。活動の成果を見せていただいて、改めて「温かく見守ってください」の言葉どおり、お互いに温かく見守ることができれば、市民にとって住みやすいまちになると感じた。

令和5年度も市民参加型補助金事業として採択されている。当事者だからこそ、サロンの活動へと進化させていただきたい。期待しているので頑張っていたきたい。

【高岡委員】

チラシは、市内のどこの掲示板でも見ることができる。自分の活動でも掲示板にチラシを貼ったりするが、掲示することの大変さはよくわかる。自己評価書にも掲示後の確認・見守りが必要であると記載されていたが、自身の活動からも、掲示物がはがされたり、色褪せたり、天候によって破けたりすることから、定期的な見守りや貼りかえが必要だと思う。

アンケートに「自分の子がこのような子として生まれてくるまでは、私自身も知的障がいのある方に理解がなかったので、小さい頃からの教育が必要じゃないかなと思う」と記載があったが、当事者同士の集まりにするのではなく、それ以外の方との交流が大事なのではないかなと思う。子どもがいたほうが馴染みやすいので、大人だけではなく、子どもも含めた交流をぜひ深めていただきたい。

【田島委員】

大変頑張っていると思う。実績の報告では補助金をどのように活用したか、チラシ・ポスター・小冊子について説明をいただいた。補助金事業として採択されたのは、チラシや冊子の向こうにある団体の活動に共感したからというところがあるのではないかな。

チラシの先にある活動や触れ合いという部分をより多く伝えていただけるようにしていただけるとよい。引き続き頑張っていたきたい。

令和5年度第2回習志野市市民参加型補助金審査委員会議事録

1 開催日時 令和6年3月16日(土) 午前9時30分～11時30分

2 開催場所 市役所3階大会議室

3 出席者

【委員長】 松井 秀明

【副委員長】 田島 則行

【委員】 齊藤 恵子

鍋嶋 洋子

高岡 明美

林 孝治

山野井 武

廣瀬 淳一

【事務局】協働経済部 部長 根本 勇一

次長 小倉 一美

協働政策課 課長 河栗 太一

係長 柴野 夕子

主任主事 田村 大輔

【発表】 4団体9人

【傍聴者】 0人

【関係課】 3人

4 会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 審査 (1) 令和6年度習志野市市民参加型補助金二次審査について

5 会議資料 令和5年度第2回習志野市市民参加型補助金審査委員会に関する資料

※別添資料

会議次第

資料1 習志野市市民参加型補助金審査委員会スケジュール

資料2 令和6年度習志野市市民参加型補助金 申請事業一覧

資料3 令和6年度習志野市市民参加型補助金の採点について

資料4 市民参加型補助金 二次審査採点票【記入例】

参考 ・習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領

・習志野市市民参加型補助金審査委員会委員名簿

6 会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

第2 会議録署名委員の指名

山野井委員、廣瀬委員

第3 審査（1）令和6年度習志野市市民参加型補助金二次審査について

【河栗協働政策課長】

資料1、資料2、資料3、資料4について説明。

【山野井委員】

過去の採択回数は審査において考慮すべきなのか伺う。

【河栗協働政策課長】

今回の提案事業に対して審査基準を満たしているのか審査いただくこととなる。同一事業は3回まで採択可能である。前回と比較し何も変わっていないということはないと考える。事業を実施したうえで、どのような点が改善されたのか等は審査するうえでのポイントとなる。

【松井委員長】

採点票の回収について伺う。

【河栗協働政策課長】

市民参加型補助金審査委員会閉会後に採点票を回収させていただく。

【鍋嶋委員】

審査結果は基準点の70点を超えていれば採択ということによいのか。

【河栗協働政策課長】

審査委員の採点の中から、最高得点と最低得点を除いた平均点が基準点の70点を超えた場合は採択となる。

【鍋嶋委員】

採点票に記載したコメントは団体へ伝えるのか、担当課の参考資料とするのか伺う。

【河栗協働政策課長】

審査結果とあわせて審査委員からのコメントは各団体へ送付（フィードバック）する。

【earth FUNTRY!】

申請事業について説明。

【高岡委員】

多くの活動を計画されていることはすばらしい。藤崎小学校以外の小学校での実施も予定しているのか。

【earth FUNTRY!】

まずは子どもの通っている藤崎小学校から実施予定。事業案内のチラシが出来上がり次第、市内全小学校へ周知していく予定である。

【高岡委員】

ワークショップも団体で実施するのか伺う。

【earth FUNTRY!】

そのとおりである。

【高岡委員】

市クリーンセンターを見学するのも4年生である。4年生を対象として実施するのはよいと思う。

【earth FUNTRY!】

団体でも市クリーンセンターを見学した。4年生と見学内容について話ができるので、環境学習についても4年生を対象としている。

【鍋嶋委員】

多様で、親しみやすい楽しい内容である。

会員数は増えているが、これだけ多くの事業に取り組んでいて、負担感はないのか伺う。また、これから活動を継続していくためにどのように会員を増やしていこうと考えているのか伺う。

【earth FUNTRY!】

楽しくやっていける範囲で取り組んでいる。やりたいことが多いので実現できる範囲で

現在、サポートメンバーは2種類にわけて募集をしており、興味・関心のある事業を手伝っていただくメンバー、さらにモチベーションの高い人は中心メンバーとなって、さまざまなワークショップの開催に携わっていただいているところである。

【鍋嶋委員】

収入を確保し、サポートメンバーが会員となっていくとよいと思う。

【津田沼北部連合町会】

申請事業について説明。

【田島委員】

事業企画書とプレゼンテーションの内容が異なるので教えていただきたい。事業企画書には、町会事業の理解者の発掘、中学生を町会役員に推薦、愛犬を連れて散歩する方々との連携、BANDを駆使した情報の提供とある。提出資料の項目と違うようだが、プレゼンの内容が変わったということなのか。

【津田沼北部連合町会】

提出資料と発表内容の整合性がとれていないかもしれない。提出後、連合町会の役員会でプレゼンテーションの内容をブラッシュアップした結果、本日の内容となった。基本的には変わっていないと思う。

【田島委員】

「ナラシド♪」をかなり強調しているが、キャラクターとして使用したいということなのか。

【津田沼北部連合町会】

キャラクターを人と人をつなぐアイテムとして考えている。犬を通じて非常に有効なコミュニティが形成されている。そのコミュニティを参考にした。地域の人とつながりたいとき、犬の代わりに「ナラシド♪」を持つことで、良好な関係を作るきっかけとしたいと考えた。町会・自治会活動をはじめ日赤の活動など、コミュニティの中で地域活動をされている人に持っていただくことで、活動を知らない人とのコミュニケーションのきっかけとなることを期待している。「ナラシド♪」は市の象徴であることから効果が期待できると考えた。

【鍋嶋委員】

事業収支計画書には「ナラシド♪」キーホルダーが2ロットと記載されているが、地域でつながりをつくるために、地域活動をしている人が身に着けて声掛けをするということなのか。

【津田沼北部連合町会】

ロットは100個単位の注文となる。津田沼北部連合町会の中で活動している人に身に着けていただく。

【鍋嶋委員】

各団体を通じて、地域活動をしている人に、コミュニティのつながり作りのためにキーホルダーをいつも身に付けてほしいという案内をするのか。

【津田沼北部連合町会】

キーホルダーを身に付けてコミュニティ内がつながること。徘徊している人がいないのか、異常がないのか、ながら見守りをさせていただくということである。

【鍋嶋委員】

ながら見守り活動をしている人が身に着けるのか。高齢者が身に着けるのか。

【津田沼北部連合町会】

活動している自身の身を守りつつ、地域の見守りをさせていただく。

団体に活動している人にまず身に付けていただく。着けていれば必ず注目され、そこからコミュニケーションがとりやすい。興味を持った方にキーホルダーを配布することで輪を広げることが本事業の趣旨である。

【山野井委員】

活動内容よいと思うが、提出資料と発表内容が異なることから伺う。キーホルダーには活動中とわかるような記載がなければ効果が期待できないのではないのか。メッセージがなければ見守っているのか、見守ってほしいのか、活動がわからない。

【津田沼北部連合町会】

メッセージについては補助金が採択された際に検討する。

【習志野市 e-sports 協会】

申請事業について説明。

【田島委員】

興味深い事業である。参加者が増えていくと、設備投資が必要ではないのか。その点が心配だが、参加者増に対する対応策や企業の協力などはあるのか。

【習志野市 e-sports 協会】

機材の追加購入とマンパワーのことを考え、開催時間を区切り開催回をわけて対応していく。千葉県 e-sports 連盟と連携しているので、現在も参加者が多い場合は機材を借りて対応している。

【松井委員長】

写真があり事業内容がとてもわかりやすかった。世代間交流のイメージと講師謝金について伺う。

【習志野市 e-sports 協会】

谷津6丁目町会ですでに実証済であるが、高齢者と地域の子どもたち、孫、親子を巻き込み、多世代で一緒に体験していただいているところである。

高齢者だけの体験より、子どもたちがいると喜んでもっと楽しんでいるので積極的に取り組みたい。

千葉県 e-sports 連盟には健康ゲーム指導士という有資格者がいることから、今年度も普及指導に対し謝礼を支払っている。会のメンバーも回を重ねて進歩していることから、令和5年度は10回を予定していたが、令和6年度は5回を計上したものである。

【鍋嶋委員】

体験から地域において定期的を開催していただくことがこの事業の大事なところだと思う。すでに体験した町会・自治会で機材を購入し継続実施するという話もあるとのことだが、機材を購入したものの町会・自治会だけでは活用が難しいという懸念があるのではないのか。体験した地域のサポートについてどのように考えているのか伺う。

【習志野市 e-sports 協会】

はじめのうちは機材のセッティングが難しいのではないかと考えている。購入した町会・自治会については、当協会をサポートさせていただく。谷津6丁目町会を例にあげると、購入後3回目の開催時には当協会のメンバーが到着する前に、町会・自治会員だけで機材のセッティングを完了し e-sports を楽しんでいた。数回のサポートで町会・自治会員だけで対応できるようになると思うが、要望があれば新しい e-sports 体験とセッティング等のサポートを続けていく。

【鍋嶋委員】

定期的に開催するためには町会・自治会において機材購入の負担が生じるということなのか。

【習志野市 e-sports 協会】

当協会では、購入するまでには至らない、もう少し体験したいという町会・自治会に市民参加型補助金で購入した機材の貸し出しを行っている。

【NPO 法人おりがみ】

申請事業について説明。

【廣瀬委員】

ワークショップの開催場所が中央公民館を予定しているが、市内全域の町会・自治会を対象としているのか、中央公民館周辺の町会・自治会を想定しているのか伺う。また、イベントはワークショップを通してつながった団体のイベントを想定しているのか、すでに何か考えているのか伺う。

【NPO 法人おりがみ】

市内全域の町会・自治会を考えているのだが、これまでの経験では参加する中・高校生は友だちと参加することから地域が偏る傾向がある。参加する中・高校生と町会・自治会がマッチするように考えていきたい、活動拠点も移していきたい。募集方法は工夫をしなければいけない。まずは中・高校生の募集、参加者にマッチするような町会・自治会に協力いただくような手順を検討しているが、行く行くは市内全域で実施していきたいという思いがある。

イベントについては「習志野きらっと」を想定した出展料なのだが、どこのイベントに出展しても可能なよう計上したものである。実際には、中・高校生のやりたいこととイベントがマッチするところに出展することとなる。

【山野井委員】

NPO 法人おりがみとしては、これまで事業活動を通じて、補助金がなくてもこのような事業を実施できるノウハウをすでに持っていると思う。その点についてどのように考えているのか伺う。

【NPO 法人おりがみ】

NPO 法人おりがみとしては、補助金に関わらず、問題なく、事業（活動）を実施することができる。習志野市で事業を実施していくためには、中学校・高校とつながることが重要である。そのためには、事業周知用のチラシ等の経費がかかる。はじめて令和5年度に「わかもの活力型」の補助事業を活用し、習志野市で事業を実施した。令和6年度も市民参加型補助金事業に応募し、これから習志野市において、しっかりと事業を根付かせていきたいと考えているところである。

【田島委員】

すばらしいプレゼンテーションで将来性があると感じた。中・高校生をターゲットにすることは理解できるのだが、町会・自治会対応が大変ではないかと思う。その点についてどのように考えているのか伺う。

【NPO 法人おりがみ】

如何にして、中学生・高校生主導とするのが大事な点である。何気ないコミュニケーションから中

学生・高校生に空気を読み取らせてしまうことがある。中学生・高校生は町会・自治会の皆さんから挨拶を注意されたりすると委縮してしまうことがある。そのようなコミュニケーションレベルの注意点について町会・自治会の皆さんに説明させていただき、納得していただいたところで、活動をはじめていきたい。信頼関係を築いてパートナーとなれば、その例から広がっていくと思う。

拠点を築いてから市内全域に広げていきたい。

【田島委員】

町会・自治会でもどのように住民とつながっていくのかという課題を抱えているのではないか。中学生・高校生の親世代がおそらく町会・自治会活動に参加していないのではないかと思う。そのような点をカバーするような活動を期待している。